

赤十字救急法講習内容一覧

	項目	内容例	所要時間	形式	
救急法基礎講習内容	1	手当の基本	観察の基本 体位の基本 傷病者への接し方 現場での留意点	0.5	講義と実技
	2	一次救命処置	心肺蘇生 AEDを用いた除細動 気道異物除去	1.5～3.0	講義と実技
救急法救急員養成講習内容	3	急病	心臓発作 脳卒中 気管支喘息などの呼吸困難 低血糖 熱中症 中毒 アナフィラキシー 急性腹症 痙攣	0.5	講義
	4	けが	きず 骨折 各部のけが 特殊なけが	0.5	講義
	5	止血法	止血のしくみ 直接圧迫止血 止血帯止血法	1.0～3.0	講義と実技
	6	きずの手当	きずの手当 包帯	1.0～3.0	講義と実技
	7	骨折の手当	固定 各部の骨折の手当 捻挫の手当	1.0～2.0	講義と実技
	8	搬送	搬送方法	1.0	講義と実技
	9	救護	災害時の心得 災害時の備え	0.5	講義

※ 各コースの時間は、目安です。ご希望の開催時間により内容はご相談に応じます。

1 心肺蘇生とAED

傷病者を救命するために行う緊急処置のことで、心肺蘇生やAEDを用いた除細動を学びます。傷病者の社会復帰において大きな役割を果たします。

反応の確認



119番とAEDの手配



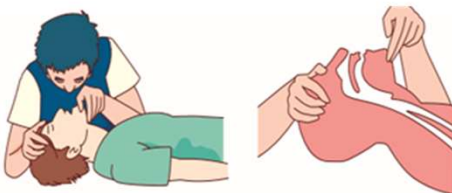
呼吸の確認



胸骨圧迫



気道確保(頭部後屈顎先挙上法)



人工呼吸

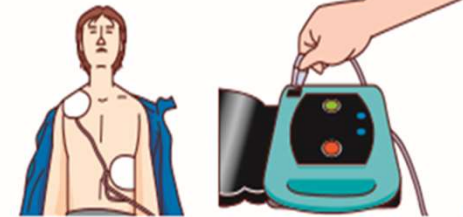


AEDを用いた除細動

1 電源を入れる



2 電極パッドを傷病者の胸部に貼る(ケーブルを本体に接続する)



3 AEDが自動的に傷病者の心電図を解析する

4 AEDから除細動の指示が出たら、除細動ボタンを押す



2 のどに物が詰まったら

気道異物の除去

のどに異物が詰まると、話しかけても返答ができないとか、のどをつかむような仕草をして、苦しい状態を示そうとします。傷病者が咳をすることが可能であれば、咳が最も効果的です。声が出ないか、十分に強い咳ができない場合は119番通報をしたうえで以下の手当を試みます。



✓ 背中をたたく

立っているか座っている場合



寝ている場合



✓ 上腹部を突き上げる

立っているか座っている場合



3 けがの手当

鼻血

鼻の入口に近い鼻中隔粘膜の細い血管が、外傷や気圧の変化などで腫れて、出血することが原因です。



虫に刺された

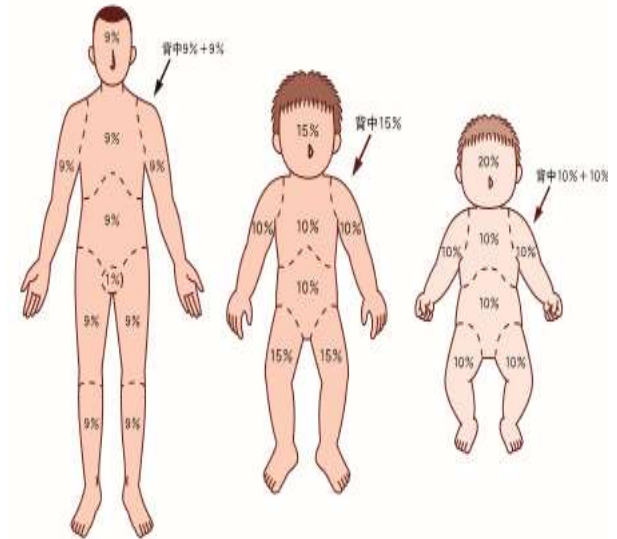
ハチ

ハチに刺されると痛みと腫れが起こり、ハチ毒に過敏な人は、一匹に刺されてもショック状態になったり、呼吸停止を起こし死亡することがあります。



熱傷

熱傷が体の表面積の20%以上(子どもは10~15%以上)になると重症なので、範囲の広い時は急いで病院へ搬送します。



成人

幼児

乳児

✓ 熱傷の程度

- 1度 皮膚の色が赤くなり、ひりひりする。
- 2度 腫れぼったく赤くなり、水ぶくれになり、痛みが強い。
- 3度 皮膚が黒く焦げていたり、蒼白になる。



4 骨折の手当

骨折

骨折部は1箇所とは限らないので、全身をよく注意して調べることが必要です。

✓ 症状

- 腫れている。
- 変形がある。
- 皮膚の変色がある。
- 触れると激しい痛みがある。

少しでも骨折を疑わせる症状がある時は骨折の手当をし、傷病者に楽な体位をとらせ、全身および骨折部を安静にします。

副子

骨折部の動揺を防ぐために、上肢、下肢及び体に当てる支持物のこと。骨折、脱臼部の上下の関節を含めることができる十分な長さ、強さ、幅のあるものを用います。



前腕



鎖骨



膝



5 けがをした人の搬送

搬送

傷病者を動かしたり、運んだりすることは、どんな場合にもある程度の危険を伴います。どんなに慎重に運んでも、必ず傷病者に動揺を与えることになるからです。

搬送法を誤って悪い結果にならないように、正しい方法で行うことが重要です。

✓ 搬送の準備

- ✓ 傷病者に対する手当は完了したか。
- ✓ 傷病者をどんな体位で運ぶか。
- ✓ 保温は適切か。
- ✓ 担架は安全・適切に作られているか。
- ✓ 人数と役割はよいか。
- ✓ 搬送先と経路は決まったか、それは安全な経路か。

✓ 1人で運ぶ方法



✓ 2人で運ぶ方法



✓ 3人で運ぶ方法

